



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月14日

上場会社名 ワタミ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7522 URL <https://www.watami.co.jp/>
 代表者 （役職名）代表取締役会長兼社長CEO （氏名）渡邊 美樹
 問合せ先責任者 （役職名）経営企画本部長 （氏名）西澤 徹 TEL 03-5737-2288
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年3月期第1四半期	24,159	9.3	1,058	△7.1	1,978	193.6	1,621	221.9
2026年3月期第1四半期	22,112	3.3	1,139	8.4	673	△69.0	503	△70.5

（注）包括利益 2027年3月期第1四半期 1,957百万円（-％） 2026年3月期第1四半期 △744百万円（-％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	37.46	-
2026年3月期第1四半期	9.59	-

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2027年3月期第1四半期	73,287	30,344	40.7	441.97
2026年3月期	74,556	30,493	40.4	440.77

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 29,844百万円 2026年3月期 30,156百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	-	0.00	-	10.00	10.00
2027年3月期	-	-	-	-	-
2027年3月期（予想）	-	-	-	-	-

（注）2027年3月期の配当予想につきましては、現時点では未定としております。

上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式（非上場）の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

当社は、2027年3月期の連結業績について、中東やウクライナ紛争等の先行きの不透明感や世界経済に及ぼす不確実性により合理的に算定することが困難であることから公表しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 3社 (社名) Onigilly, Inc.、Onigilly Franchise LLC、Onigilly IP, Inc.、除外 1社 (社名)

(注) 詳細は、添付資料P.13「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2027年3月期1Q	42,684,880株	2026年3月期	42,684,880株
2027年3月期1Q	2,581,428株	2026年3月期	2,580,448株
2027年3月期1Q	40,103,859株	2026年3月期1Q	40,062,999株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る 1 株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

A 種優先株式	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年 3 月期	0.00	0.00	0.00	4,000,000.00	4,000,000.00
2027年 3 月期	0.00				
2027年 3 月期（予想）		0.00	0.00	4,000,000.00	4,000,000.00

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 当四半期のキャッシュ・フローの概況	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	11
(セグメント情報等の注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)	13
(収益認識に関する注記)	13

1. 経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、底堅い企業業績を背景に前年度から続く賃上げの動きの広がり等により、雇用・所得環境の改善が進み、個人消費は堅調に推移いたしました。一方、米国及び日本の政策金利は、日本国内における物価上昇圧力等により、日米金利差は依然として縮小傾向にあります。また、イスラエル・パレスチナ情勢、ロシア・ウクライナ情勢などの地政学的リスク等による影響により、エネルギーや原材料価格は依然として高い水準で推移しており、また2026年2月に始まった米国とイランとの紛争やホルムズ海峡の封鎖による石油供給リスクが発生し、引き続き不確実性の高い経済環境が続いております。

当社グループはこのような環境下においても、「地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになろう」というグループスローガンのもと、各事業分野においてお客様のありがとうを集める活動を展開してまいりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①国内外食事業

国内外食事業におきましては、6店舗の新規出店と2店舗の撤退を行い、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は521店舗となりました。国内外食事業における売上高は9,615百万円（前年同期比106.6%）、セグメント利益は583百万円（前年同期比113.4%）の増収増益となりました。

②宅食事業

宅食事業におきましては、当第1四半期連結会計期間末の営業拠点数は506ヶ所となりました。調理済み商品の累計お届け数は15,966千食（前年同期比115.1%）となっております。新商品の投入により調理済み商品のお届け数が前年同期を上回ったこと等の影響により、宅食事業における売上高は10,790百万円（前年同期比109.3%）、セグメント利益は979百万円（前年同期比87.8%）の増収減益となりました。

③海外事業

海外事業におきましては、10店舗の新規出店を行い、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は91店舗となりました。

海外事業における売上高は2,943百万円（前年同期比113.2%）、セグメント利益は103百万円（前年同期比1,216.3%）の増収増益となりました。

④環境事業

環境事業におきましては、電力小売事業を中心に展開しております。増収となりましたが、仕入単価の増加により、減益となりました。その結果、売上高は504百万円（前年同期比123.2%）、セグメント利益は47百万円（前年同期比41.4%）となりました。

⑤農業

農業におきましては、有機農産物の生産販売、酪農畜産、乳製品の販売を行っております。売上高は209百万円（前年同期比147.8%）、セグメント損失は68百万円（前年同期は83百万円の損失）となりました。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの成果は、売上高は24,159百万円（前年同期比109.3%）となり、営業利益は1,058百万円（前年同期比92.9%）、経常利益は1,978百万円（前年同期比293.6%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,621百万円（前年同期比321.9%）となりました。

経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、為替変動（USD：前第1四半期連結累計期間：149.53円→144.82円、当第1四半期連結累計期間：156.54円→159.53円）等の影響により、増加しております。

国内外食事業は、様々な経済環境の変化、顧客ニーズの変化に対応するべく、「ミライザカ」、「鳥メロ」などの居酒屋業態、「焼肉の和民」、「かみむら牧場」などの焼肉業態、「オリーブチキン」などのテイクアウト・デリバリー業態、「TGIフライデーズ」等「ハレの場」を提供する業態、そして前々連結会計年度より開始したSUBWAY事業の展開など様々な業態を展開し、成長基盤の整備を強力に進めるとともに、生産性向上、固定費削減等の継続した取り組みを進めた結果、増収増益となりました。

宅食事業においては、健康意識の高まりに対応し、冷凍惣菜の販売による在宅勤務者などを対象にした払販の実施、テレビショッピング放映による広範囲にわたる購買層の宅食需要の取込みのほか、2025年10月6日に高齢者向けの新商品「好い日の御膳」をリリースしました。この商品は、特に75歳以上の後期高齢者の方を対象にしており、健康を意識した栄養バランスに配慮した調理済み宅配弁当です。管理栄養士監修のもと、栄養バランスが考慮された日替わりの献立が組まれており、調理に手をかけることで家庭の味を再現するなど、健康及び味へのこだわりを大切にしております。また、高品質の商品を低価格でお届けするため、コスト削減の工夫として仕入や製造、物流を見直し、効率を追求することで、安価でありながら高い品質を維持しております。物価高が続いており、2025年10月には3,000品目以上の飲食料品が値上げされております。この影響を受け、特に年金生活を送る高齢者にとって、健康的な食事を続けることは難しい状況です。このような厳しい経済環境の中、当社は「好い日の御膳」を手頃な価格で提供することで食数増加につなげた結果、増収となりましたが、原材料高等の影響により減益となっております。

これら外食事業及び宅食事業の仕組みを支える商品開発・仕入・物流・製造などのMD体制につきましては、継続的な見直し及び改善を行い、他社との差別化並びに収益構造の改革に取り組み、リスクに対応した業態ポートフォリオの構築を進めてまいります。

海外事業では、日本の国内外食事業と商品開発体制などの連携を強化した新業態の開発と出店、短期間で変化する収益環境に応じて戦略的なスクラップアンドビルドを実行し、増収増益となっております。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末（以下「前期末」という。）比1,269百万円減少の73,287百万円となりました。流動資産は、現金及び預金の減少及び有価証券の増加等により前期末比2,059百万円減少の54,123百万円となりました。固定資産は、前期末比790百万円増加の19,163百万円となりました。固定資産のうち有形固定資産は、国内外の外食店舗設備等の設備投資等により前期末比794百万円増加の7,608百万円となりました。無形固定資産は、のれんの発生等により前期末比1,368百万円増加の2,599百万円となりました。投資その他の資産は、投資有価証券の減少等により前期末比1,372百万円減少の8,955百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の負債の合計は、前期末比1,120百万円減少の42,942百万円となりました。流動負債は、未払法人税等、賞与引当金の減少により前期末比1,198百万円減少の17,452百万円、固定負債は、リース債務等の増加により前期末比78百万円増加の25,490百万円となりました。このうち有利子負債（短期借入金、長期借入金、社債及びリース債務の合計額）は、前期末比1,759百万円減少の27,243百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の純資産の部は、株式買取による資本剰余金の減少1,383百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益1,621百万円の計上及び配当金881百万円の支払による利益剰余金の増加740百万円並びに為替変動による為替換算調整勘定の増加320百万円等により、前期末比148百万円減少の30,344百万円となりました。これらの要因により、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は40.7%となり、前期末比0.27%ポイント増加するとともに、流動比率は310.1%と財務安全性の水準を確保しております。

(3) 当四半期のキャッシュ・フローの概況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末14,704百万円に比べて5,282百万円減少し、9,421百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況については下記のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は942百万円（前年同期は954百万円の収入）となりました。主な内訳は税金等調整前四半期純利益が1,977百万円、減価償却費が597百万円、仕入債務の減少額が193百万円、法人税等の支払額が671百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は3,266百万円（前年同期は1,394百万円の支出）となりました。主な内訳は有形固定資産の取得による支出が1,223百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は2,983百万円（前年同期は2,755百万円の支出）となりました。主な内訳は長期借入金の返済による支出が1,884百万円、配当金の支払額が868百万円であります。

「（1）当四半期の経営成績の概況」に記載のとおり、前連結会計年度より推進した固定費削減をし、また、顧客ニーズに対応した業態（居酒屋業態、焼肉業態、テイクアウト・デリバリー業態、ハレの場を提供する業態）の展開により外食事業が回復しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益が1,621百万円（前年同期は503百万円の利益）となり増益となりました。営業利益は1,058百万円（前年同期は1,139百万円の利益）となったため、営業活動によるキャッシュ・フローは減少しております。また、戦略的な支出は別とし、通常の投資活動によるキャッシュ・フローは、グループ連結の営業活動によるキャッシュ・フローの範囲内で行うという原則に準拠しております。当第1四半期連結会計期間末に保有する現金及び預金38,959百万円は、前期末より4,611百万円減少しておりますが、有利子負債（短期借入金、長期借入金、社債及びリース債務の合計額）27,243百万円を大きく上回る水準にあります。これらの施策により手元流動性が向上するとともに、調達した資金を成長戦略へ投資することにより、厳しい環境下においても確実な成長と業績の改善に取り組んでまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	43,570	38,959
売掛金及び契約資産	4,948	4,951
有価証券	2,384	5,779
商品及び製品	1,648	1,537
仕掛品	327	265
原材料及び貯蔵品	415	393
その他	2,960	2,311
貸倒引当金	△72	△73
流動資産合計	56,183	54,123
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,497	4,000
機械装置及び運搬具	1,191	1,338
土地	329	329
リース資産	757	888
建設仮勘定	331	212
その他	705	837
有形固定資産合計	6,813	7,608
無形固定資産		
のれん	295	1,653
その他	935	946
無形固定資産合計	1,231	2,599
投資その他の資産		
投資有価証券	4,409	3,186
差入保証金	4,588	4,559
繰延税金資産	843	722
投資固定資産	3	3
その他	659	658
貸倒引当金	△175	△175
投資その他の資産合計	10,328	8,955
固定資産合計	18,373	19,163
資産合計	74,556	73,287

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,651	3,466
短期借入金	6,720	6,278
リース債務	590	606
未払金	2,850	2,855
未払法人税等	753	322
未払費用	2,261	2,409
賞与引当金	622	372
役員賞与引当金	50	-
販売促進引当金	8	24
その他	1,141	1,115
流動負債合計	18,651	17,452
固定負債		
長期借入金	21,289	19,901
リース債務	402	457
資産除去債務	1,652	1,664
その他	2,066	3,465
固定負債合計	25,411	25,490
負債合計	44,062	42,942
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,910	4,910
資本剰余金	15,618	14,234
利益剰余金	6,468	7,209
自己株式	△3,540	△3,540
株主資本合計	23,456	22,813
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	71	80
為替換算調整勘定	6,629	6,950
その他の包括利益累計額合計	6,700	7,030
非支配株主持分	337	500
純資産合計	30,493	30,344
負債純資産合計	74,556	73,287

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	22,112	24,159
売上原価	9,656	10,945
売上総利益	12,456	13,213
販売費及び一般管理費	11,316	12,155
営業利益	1,139	1,058
営業外収益		
受取利息	179	155
有価証券利息	32	55
設備賃貸収入	41	51
持分法による投資利益	0	-
助成金収入	14	307
為替差益	-	474
雑収入	27	104
営業外収益合計	294	1,149
営業外費用		
支払利息	137	160
設備賃貸費用	38	44
持分法による投資損失	-	0
為替差損	502	-
雑損失	81	23
営業外費用合計	760	228
経常利益	673	1,978
特別損失		
固定資産売却損	-	0
固定資産除却損	-	0
減損損失	19	-
特別損失合計	19	0
税金等調整前四半期純利益	654	1,977
法人税、住民税及び事業税	132	227
法人税等調整額	13	124
法人税等合計	145	352
四半期純利益	508	1,625
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	503	1,621

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	508	1,625
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11	9
為替換算調整勘定	△1,241	322
その他の包括利益合計	△1,253	331
四半期包括利益	△744	1,957
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△744	1,952
非支配株主に係る四半期包括利益	0	5

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	654	1,977
減価償却費	526	597
減損損失	19	-
のれん償却額	31	17
賞与引当金の増減額(△は減少)	△332	△300
販売促進引当金の増減額(△は減少)	6	15
受取利息及び受取配当金	△212	△211
支払利息	137	160
為替差損益(△は益)	474	△353
固定資産除却損	-	0
差入保証金償却額	4	4
売上債権の増減額(△は増加)	191	18
棚卸資産の増減額(△は増加)	65	211
立替金の増減額(△は増加)	△9	42
未収入金の増減額(△は増加)	△458	△567
未収消費税等の増減額(△は増加)	△21	△7
仕入債務の増減額(△は減少)	△414	△193
未払金の増減額(△は減少)	20	△131
未払費用の増減額(△は減少)	△52	145
未払消費税等の増減額(△は減少)	△157	228
預り金の増減額(△は減少)	162	9
その他	876	△31
小計	1,512	1,633
利息及び配当金の受取額	201	144
利息の支払額	△138	△163
法人税等の支払額	△621	△671
営業活動によるキャッシュ・フロー	954	942
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△695	△1,223
無形固定資産の取得による支出	△5	△139
資産除去債務の履行による支出	△9	-
定期預金の預入による支出	△17,968	△16,537
定期預金の払戻による収入	17,332	16,415
投資有価証券の取得による支出	△1,758	△1,776
投資有価証券の償還による収入	1,735	1,423
差入保証金の差入による支出	△73	△79
差入保証金の回収による収入	89	132
貸付けによる支出	△3	△3
貸付金の回収による収入	4	2
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△1,474
その他	△40	△7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,394	△3,266

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	2
短期借入金の返済による支出	-	△9
長期借入金の返済による支出	△1,631	△1,884
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△339	△223
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の処分による収入	-	0
配当金の支払額	△783	△868
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,755	△2,983
現金及び現金同等物に係る換算差額	△79	24
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△3,276	△5,282
現金及び現金同等物の期首残高	13,946	14,704
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,670	9,421

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

四半期連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる期中財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成しております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内 外食	宅食	海外	環境	農業	計				
売上高										
日本	8,945	9,875	-	409	142	19,372	40	19,412	-	19,412
東南アジア	-	-	2,451	-	-	2,451	20	2,472	-	2,472
米国	78	-	149	-	-	227	-	227	-	227
顧客との契約から 生じる収益	9,023	9,875	2,601	409	142	22,051	60	22,112	-	22,112
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	9,023	9,875	2,601	409	142	22,051	60	22,112	-	22,112
セグメント間の内部 売上高又は振替高	11	2	-	212	54	280	31	312	△312	-
計	9,035	9,877	2,601	621	196	22,332	92	22,424	△312	22,112
セグメント利益又は 損失(△)	514	1,116	8	113	△83	1,670	△0	1,669	△529	1,139

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農業テーマパーク事業及び労働者派遣事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,670
その他	△0
全社費用(注)	△529
四半期連結損益計算書の営業利益	1,139

(注) 全社費用は、主にグループ全体の管理業務に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

撤退予定等の店舗資産に係る減損損失を「国内外食」セグメントにおいて13百万円、「海外」セグメントにおいて5百万円、それぞれ計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては19百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

記載すべき事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

記載すべき事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内 外食	宅食	海外	環境	農業	計				
売上高										
日本	9,540	10,790	-	504	209	21,045	60	21,105	-	21,105
東南アジア	-	-	2,781	-	-	2,781	35	2,816	-	2,816
米国	75	-	162	-	-	237	-	237	-	237
顧客との契約から 生じる収益	9,615	10,790	2,943	504	209	24,064	95	24,159	-	24,159
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	9,615	10,790	2,943	504	209	24,064	95	24,159	-	24,159
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	41	-	208	44	294	37	332	△332	-
計	9,615	10,831	2,943	713	254	24,358	133	24,492	△332	24,159
セグメント利益又は 損失(△)	583	979	103	47	△68	1,645	△7	1,638	△580	1,058

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農業テーマパーク事業及び労働者派遣事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,645
その他	△7
全社費用(注)	△580
四半期連結損益計算書の営業利益	1,058

(注) 全社費用は、主にグループ全体の管理業務に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

記載すべき事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「海外事業」セグメントにおいて、当社の連結子会社であるWatami US CorpがOnigilly, Inc.の株式を取得したことに伴い、のれんを計上しております。当第1四半期連結累計期間において、当該事象によるのれんの増加額は、1,368百万円であります。

なお、のれんは、当第1四半期連結累計期間において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(重要な負ののれん発生益)

記載すべき事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるWatami US CorpがOnigilly, Inc.の株式を取得したため、同社並びに同社の子会社であるOnigilly Franchise LLC及びOnigilly IP, Inc.を連結の範囲に含めております。

(収益認識に関する注記)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等の注記)」に記載のとおりであります。